

NEWSLETTER

NO. 8

20 DECEMBER 1991

- ・ 91年地理学教室の行事記録 1
- ・ 卒業論文公開口頭試験について 1
- ・ 3年生巡検報告 2
- ・ 地理学研究室で利用できるリモートセンシングデータ 4

【90年地理学教室の行事記録】

- ・ 三浦半島巡検（地形・地質観察。国土館大学地理学会主催、長谷川）。 2月13～14日
- ・ 平成2年度 卒業論文公開口頭試験。 2月18～20日
- ・ 1年生巡検（埼玉県三芳町。長島、瀬戸、野口、長谷川、内田）。 5月23～24日
- ・ 国土館大学地理学会。鶴川キャンパス。 5月25日
《講演会》内田 順文先生「地理的イメージについて」。
《就職ガイダンス》
杉山晋太郎氏（平成元年度、内外地図株式会社勤務）、篠原 直樹氏（平成2年度卒、春日部市役所勤務）。
- ・ 八王子市南大沢地区巡検（国土館大学地理学会主催、福島義和先生）。 6月30日
『ニュータウンの現状と今後のあるべき姿』
- ・ 日立市巡検（国土館大学地理学会主催、長島弘道先生）。 9月12～14日
- ・ 3年生巡検（浜松；長島ゼミ。甲府；瀬戸ゼミ。霧ヶ峰；野口ゼミ。養老溪谷；長谷川ゼミ。松本；内田ゼミ）
10月14～17日
- ・ 相模原段丘巡検（3年長谷川ゼミ、地形学履修者など） 11月17日
- ・ 2年生巡検（秩父市（都市気温調査）、寄居町（土地利用図の作成）。 12月14日
（長島、瀬戸、野口、長谷川、内田）。12月11～12日。
- ・ 国土館大学地理学会。世田谷キャンパス。《講演会》許衛東先生「雲南の少数民族の土地利用と生活」。
《ゼミ発表：3年の各ゼミ代表者》。

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して可否を決めています。

今年度も、2月17～19日に卒業論文の口頭試験がおこなわれ、試験の結果から卒論の評点が決まります。公開試験なので1～3年生も出席し、今後の参考にする必要があります。なお、3年生は全員が出席するようにしてください。

試験は、持ち時間15分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジメを用意し、出席者全員に配布できるよう準備してください。レジメには当然のことですが表題、発表者（日付け、図表番号なども）を明記してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピーは必ず持参してください。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（1月初旬）に必ず返却して下さい。
未返却者は、口頭試験が受けられません。

【 3年生巡検報告 】

長島ゼミ巡検報告「浜松」

袴田 賢

10月14日(月)から10月17日(木)まで、私達長島ゼミ22名は、静岡県の浜松市及びその周辺地域において巡検を行いました。一人一人が独自のテーマを持ち、弁天島の宿舎「浜名荘」をベースに、多くの人は東の浜松市内へ、ある人は西の三ヶ日へ、またある人は北の館山寺方面へとちりじりになって調査へ出かけました。中には更に北の金指しや浜北方面、天竜川を越えて磐田市や、はるか東の静岡市まで足を伸ばした人もいます。各人がオリジナルのテーマを持った巡検というのは、1・2年次に行ったような、行程が完全に決まっている巡検と違って、自分で調査項目など全てを決定して実行しなければならないので、戸惑いや苦労が多く明らかに大変になりますが、それ自体が今後の卒論作成や、将来社会に出た時のための訓練になりますし、苦労する反面、自分の最も好きな、最も興味のあるテーマを選んで、自分のペースで調査できるというメリットもあります。ちなみに、宿舎「浜名荘」の方は、浜名湖畔の環境の良い場所に立地し、施設も風呂も広くてきれいで、料理も初日から刺身が登場し、3回の巡検の中では最も良いものだったと思います。

さて、昼間の各人の調査の後、夜はミーティングが行われました。人数が多いので2回に分けて行われました。浜松で有名な「ピアノ」などの工業や、「繊維」、「都市開発」などについて調べた人が9名。やはり浜松で有名な「うなぎ」などの漁業(浜名湖周辺)や、みかん、メロンなどの農業などについて調べた人もいました。中には今あげた分野以外のテーマ調査した人もいます。長島ゼミは「典型的な人文地理のゼミ」といわれていますが、商業について取り組んだ人はいませんでした。皆が昼間の調査の成果を熱心に発表しました。時に長島先生の鋭い質問攻めを浴びることもありました。常に新しい課題を前向きに投げかけてくださる御指導のもと、私をはじめ22名は、お互いに切磋琢磨して4日間の巡検を終わったような気がします。

最後に1・2年生の皆さんへ。来年以降、この手の巡検に参加する場合、1・2年次の巡検のスケジュールをモデルに、出発前に4日間の綿密な行程を決定し、質問事項もしっかり用意して巡検に臨むと良いと思います。調査先の都合や移動・昼食・不測の事態に備えて、余裕の持てる行程にすると良いでしょう。また、民間会社へ調査に出かける場合は、特に事前のアポイントメントを必ずする様にして下さい。いきなり出かけて受付で「どなたに御用ですか」と言われて名前を答えられなかった時には、そこで調査はストップしてしまいます。

瀬戸巡検ニュース

浅野 敏幸

瀬戸ゼミでは、自然地理・人文地理に分かれ、各々の課題にのっとり調査を行った。

- 1、ブドウの生産過程・ワインの醸造及び生産
- 2、甲府駅周辺の土地利用
- 3、甲府盆地における水害(災害)
- 4、富士五湖水害
- 5、観光・特産

に分かれ、甲府を支点として、調査を行った。

主な調査方法は、市役所・県庁に足を運びそれぞれの調査範囲の指示を受け、現地調査へと移った。主に、聞きとり調査が主体であるが、それぞれ調べることにに対し、実体験を行っていた。今回の調査は、自分の課題について調査をするために、最初はとまどいもあったが、調査結果には努力がよくあらわれていた。振り返れば、今年の巡検が一番苦労がたえなかった。

瀬戸玲子先生ゼミの巡検は、何がなんでも温泉があるというのが第一条件として出された。様々な地域がとびかき、一部では「熱海」にしようとした所では「鬼怒川温泉」など多数出たが、先生の「そこへ行って何を調べるの?」の一言で条件は跡形もなく消え去った。最後には、交通の便がよく、宿代が安く、気持ち温泉(石和)に近い甲府に決まった。今年は個人個人の課題に分かれ調査を行うために、我が瀬戸ゼミではブドウの生産や、甲府市周辺の土地利用、富士五湖の水害、観光特産物の班に分かれ、それぞれ調査をし、夜には先生を交えて調査結果の話合いを3日間行った。しかし、今回の巡検は、いつもと違って、それは宿泊先である。最後の宿泊先の「紫玉苑」はまさに学生では泊まることのできない超高級ホテルでした。何よりも無事に終わって良かった。以上、明るく楽しい巡検報告を終わります。

謎のヘリコプター

野口ゼミ：気候班・越石 達也

今回野口ゼミの巡検は、長野県の霧ヶ峰と諏訪の二カ所で行った。我々気候班は、霧ヶ峰で中浅式風向風速計を使い、微地形における風向と風速を計4回観測し、調査地域の植生の分布状態も合わせて調べた。また諏訪では、アスマン通風乾湿計やデジタル温度計で、諏訪市街地とその周辺における気温観測を夜と早朝の2回行った。

一見、今回の巡検が淡々と行われたかのように見えるかもしれないが、この間には数々のドラマがあったのである。すべてのはじまりは集合時間の時からであった。野口先生を含む巡検参加者12名、霧ヶ峰強清水にある

ホテル昨太荘前に午後1時30分に集合のはずであった。ところが、定刻を過ぎても先生が来ないのである。動揺を禁じ得ない我々は、とりあえずホテルのお爺さんの勧めで霧ヶ峰自然保護センターへ見学に行った。しばらくしてセンターから帰ったが、それでも到着していない。それから、ただ闇雲に時間を過ごして夕方5時過ぎ、ようやく先生が到着されたのである。原因は中央高速の渋滞であった。

ドラマはまだある。気候班が霧ヶ峰で観測中に、突如、一機のヘリコプターが表われ、我々の方へ直進し、頭をかすめ、旋回して山の頂上でホバリングし、我々をしばらく観察した後、北の方角へ飛び去って行ってしまった。我々は震えを抑えながら観測を終らせ、足早に山を下りて行ったのである。あのヘリコプターは何だったのか、いまだに分からないが、今となっては楽しい思い出話になっている。

長谷川ゼミ in 養老溪谷

伊瀬 久美子

10月、巡検の季節は台風と共にやってきた。ひゅるるる… 研究室ご自慢の(?)ひまわりの映像をみながら(本当に千葉に行くのかよ)とみんなが思ったかどうかはさだかでない。14日の当日、新婚四ヶ月の某H講師を筆頭に個性派ぞろいの13人の学生は山と河の町ツインピークスへ… じゃない養老溪谷へ向かったのでありました ちゃんちゃん。

現地は台風が過ぎた直後とあって、足場が悪く、地かたまるどころか、雨降って土砂くずれる という日本のことわざすら通じないこ養老溪谷、しかしそんなものは地理と馴親しんで20年 H講師には へ でもないのであった。H講師「足場悪いんで一気つけてくださいねー」と、さっさと登る登る。

一方我々学生「地理学科ってこんなにめんどくさいのかあー失敗したあー」と地理と格闘しはじめてようやく3年目、はまるわ、落ちるわ、滑るわ、田んぼの水路にはまったO嬢など、今でも思い出す度、むなしさが心をふきぬけると私にその体験を語ってくれた。しかし調査は続くのであった。ああ無情

さて、私たちがこういう苦労をかさね、何を調べてきたかという、みなさんもよくご存じの河岸段丘という地形、これである。養老川の曲がりくねった河川に発達した段丘の堆積物の状態、構成物を何地点も調べるわけだが、もちろん段丘崖によっては草などに覆われて地層がみえない所だっているわけ、どうするか… 掘る! どうやって… 鎌で。地元民の「なにしてんだ あの連中は」と言いたげな視線を気にしつつ、崖にはりつき、掘りまくる学生の集団がここにあった。これが、長谷川ゼミ巡検の基本スタイルと言っていいだろう。

「フィールドワークは体力一番 お天気との戦い」を家訓にいやゼミ訓に我々ゼミ生一同、立派な卒論を書こうと全員が…あ、いや何人かは心に誓った(?)であろう心身ともに収穫の多い巡検だったはず(だよナ…ま、その結果は来年でることでしょう)。

The End

あなたの知らない世界 ～内田先生率いる内田ゼミ(3年)とその巡検～ 飯森 直人

内田ゼミは地理学3年のあいだでは(注1)何をやっているのかという声をききます。そこで、内田ゼミはどういうゼミなのかということ、いずれゼミに入らなければならない1・2年生や内田ゼミを なぞ と思っている3・4年生に今回行われた3年巡検の様子を通して説明したいと思います。

①、内田ゼミは内田順文先生のゼミである(注2)。

②、その内田先生とはどんな人であるかということは、個人的に見て話して みて下さいね。人それぞれのイメージというものがありますが、人は、見ためや表面だけで判断してはいけません。あえて私は何もいいません。

③、内田ゼミ(3年)の巡検地は長野であった(注3)。

④、内田ゼミの巡検は、巡検に行く前にテーマを決めてから、レポートを提出するまでである。10月14～17日だけではない。というわけでテーマを決めるにも巡検前のゼミで一人ずつ時間をかけて各個人に深くするどくつっこまれる。巡検時は、昼は調査、夜は連日7:30～11:30までミーティングで1人ずつ時間をかけずくつっこまれる。

⑤、内田先生は個人を尊重するが放任主義ではない。したがって自分でちゃんとやらない人はおちるし、おとされる。よくありがちな人情主義みたいなことや、いばったり、はやくでてって(いなくなって)ほしい学生でも単位を与えるようなことはない(注4)。これらから内田ゼミと今回の巡検のことを少しは理解していただけたでしょうか。内田ゼミの3年生は自分のやりたいテーマ・方法で調査を行い、レポートを提出できたとき、みんなかなり力をつけたと思います(注5)。また、今の1年・2年生がゼミを決める時、ゼミの人数が多い少ないはどちらがいいかは、個人の価値感のちがいですから(注6)、強制はできないことですが、自分で考えて自分から動きましょう。私は?といいますが、善光寺に5回も行きました(注7)。

(注1)私は3年生で、1・2・4年のことは知らない。(注2)そのとおりである。(注3)内田ゼミの3年生は12人で、4つのゼミの中でも比較的少なくない人数だったので宿がとれた。(注4)今のところ、であり、この先どうかはわからない。(注5)実は、そう思っているのは自分だけかもしれない。(注6)内田先生は12人でも多いとおっしゃっています。(注7)あまり意味はないが「長野といえば、善光寺」だった。

【地理学研究室で利用できるリモートセンシングデータ】

地理学教室で保管しているリモートセンシングデータの一覧表を作成しました。これらデータの中には、他の研究機関から借用しているものもあるので、学生が自由に利用できるものばかりとは限りません。利用の可否に關しては長谷川に問い合わせてください。なお、ランドサット画像の解析ソフトとして「OM-SAT」+フルカラー (1677万色) ボードがHD、パソコンに組み込まれており世田谷キャンパスの学生は自由に使用できます。

1 ランドサット データ (FLOPPY DISK)

番号	パス・ロウ	日付	FORMAT	衛星	センサー	シーン	間引率	所有者/借用先
1	114 29	1979. 4. 5	BSQ	LANDSAT	MSS	網走～浜小清水		法政大学・地学
2	114 30	1979. 10. 2	BSQ	LANDSAT	MSS	十勝平野・帯広	×3	〃
3	114 30	1979. 4. 5	BSQ	LANDSAT	MSS	十勝平野・帯広	×3	〃
4	114 30	1981. 11. 5	BSQ	LANDSAT	MSS	根釧原野	×2	〃
5	108 35	1982. 11. 14	BSQ	LANDSAT	MSS	霧ヶ峰		〃
6	108 35	1983. 5. 9	BSQ	LANDSAT**	MSS	霧ヶ峰		〃
7	108 35	1984. 10. 26	BSQ	LANDSAT	MSS	霧ヶ峰		〃
8	108 35	1984. 12. 13	BSQ	LANDSAT	MSS	霧ヶ峰		〃
9	107 35	1982. 10. 22	BSQ	LANDSAT	MSS	九十九里平野		〃
10	115 35	1979. 3. 28	BSQ	LANDSAT	MSS	中禅寺湖周辺		〃
11	115 35	1979. 5. 21	BSQ	LANDSAT 2	MSS	東京		長谷川
12	107 35	1986. 4. 8	BIL	LANDSAT	MSS	東京		国土館大学・地理
13	107 35	1986. 10. 9	BIL	LANDSAT 5	TM BAND 2, 3, 4, 5	武蔵府中		法政大学・土木
14	107 35	1986. 10. 9	BIL	LANDSAT 5	TM BAND 2, 3, 4, 5	上溝		〃
15	107 35	1986. 10. 9	BIL	LANDSAT 5	TM BAND 2, 3, 4, 5	原町田		〃
16	107 35	1986. 10. 9	BIL	LANDSAT 5	TM BAND 2, 3, 4, 5	八王子		〃
17	116 35	1981. 3. 18	BSQ	LANDSAT 2	MSS	富士山		法政大学・地学
18	122 42	1981. 7. 28	BSQ	LANDSAT 4	MSS	琉球列島久米島		〃
19	115 43	1983. 7. 2	BIL, SQ	LANDSAT4	MSS	宮古島・伊良部島		長谷川
20	115 43	1983. 7. 2	BIL, SQ	LANDSAT4	MSS	宮古島南部		〃
21	115 43	1983. 7. 2	BIL	LANDSAT 4	MSS	八重干瀬		〃
22	115 43	1983. 7. 29	BSQ	LANDSAT 4	MSS	石垣島南部		法政大学・地学
23	115 43	1983. 7. 29	BIL	LANDSAT 4	MSS	石垣島北部		長谷川
24	115 43	1983. 7. 29	BIL	LANDSAT 4	MSS	西表島東部		国土館大学・地理
25	122 42	1984. 8. 01	BIL	LANDSAT 4	TM	久米島 (島尻湾・ハテの浜)		長谷川
26	115 43	1984. 12. 14	BIL	LANDSAT 4	TM	石垣島東南部		〃
27	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	西表島西1 (北)		科研費 (長谷川)
28	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	西表島西2 (中)		〃 (〃)
29	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	西表島西3 (南)		〃 (〃)
30	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	西表島東1 (北)		〃 (〃)
31	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	西表島東2 (中)		〃 (〃)
32	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	西表島東3 (南)		〃 (〃)
33	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	石西 (礁湖) 北		〃 (〃)
34	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	石西 (礁湖) 南		〃 (〃)
35	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	崎枝半島 (石垣島)		〃 (〃)
36	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	観音崎		〃 (〃)
37	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	竹富 (島)		〃 (〃)
38	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	平久保 (崎)		〃 (〃)
39	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	玉取 (崎)		〃 (〃)
40	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	カラ岳		〃 (〃)
41	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	石垣 (市街)		〃 (〃)
42	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	白保 (中央)		〃 (〃)
43	115 43	1987. 1. 21	BSQ	LANDSAT 5	TM	石垣島南部		〃 (〃)
44	115 43	1984. 12. 14	BSQ	LANDSAT 5	TM	伊良部・下地島		〃 (〃)
45	115 43	1989. 10. 25	BSQ	LANDSAT 5	TM	伊良部・下地島		〃 (〃)
46	107 35	1986. 1. 10	BSQ	LANDSAT 5	TM	房総半島 (下総台地)		国土館大学・地理
47	107 35	1990. 2. 22	BSQ	LANDSAT 5	TM	房総半島 (下総台地)		〃

2 ランドサット・空中写真(デジタル) データ(MAGNETIC TAPE)

番号	パス・ロウ	日付	FORMAT	衛星	センサー	シーン	所有者/借用先
1	115 43	1987. 1. 21	BSQ	LANDSAT 5	TM	宮古・八重山諸島	東北大学・地学
2		198#. *****	BIL	AIR CRAFT	R, B, G	横浜市北部写真データ	国土館大学・地理
3		198#. *****	BIL	AIR CRAFT	R, B, G	横浜市北部写真データ	〃
4		198#. *****	BIL	AIR CRAFT	R, B, G	横浜市北部写真データ	〃
5		198#. *****	BIL	AIR CRAFT	R, B, G	横浜市北部写真データ	〃

3 ランドサット 画像(プリント、ポジ)

番号	パス・ロウ	日付	衛星	センサー	BAND COLOR	シーン	サイズ	所有者/借用先
1	118 36	1980. 9- 3	LANDSAT	MSS	B, R, G;	東京	480mm	長島
2	115 35	1980. 11-11	LANDSAT	MSS	B, G, R;	大阪	480mm	長島
3	-----	1979. 5- 9	LANDSAT	MSS	G, B, R;	ニューヨーク	480mm	長島
4	-----	1975. 7-29	LANDSAT	MSS	B, G, R;	ロンドン	480mm	長島
5	-----	1979. 9-21	LANDSAT	MSS	B, G, R;	モスクワ	480mm	長島
6	-----	1973. 7-10	LANDSAT	MSS	B, G, R;	パリ	480mm	長島
7	-----	1978. 10-20	LANDSAT	MSS	B, G, R;	アトランタ	480mm	長島
8	-----	1979. 5-18	LANDSAT	MSS	B, G, R;	ソトレイクジター	480mm	長島
9	-----	1979. 10-30	LANDSAT	MSS	B, G, R;	ロシアベニス	480mm	長島
10	-----	1978. 4- 7	LANDSAT	MSS	G, B, R;	ダッカ	480mm	長島
11	108 34	1982. 10-13	LANDSAT	MSS	B, R, G; 4, 5, 7	新潟	240mm	長谷川
12	103 35	1983. 8-10	LANDSAT	MSS	B, G, R; 4, 5, 7	カルブ島	240mm	〃
13	116 48	1979. 3-29	LANDSAT	MSS	G, B, R; 4, 5, 6	長野	240mm	〃
14	140 15	1981. 4-22	LANDSAT	MSS	B, G, R; 4, 5, 7	関東	240mm	〃
15	129 29	1981. 10-15	LANDSAT	MSS	B, G, R; 4, 5, 7	中国東北	240mm	〃
16	129 30	1981. 10-15	LANDSAT	MSS	B, G, R; 4, 5, 7	中国東北	240mm	〃
17	130 29	1981. 10-16	LANDSAT	MSS	B, G, R; 4, 5, 7	中国東北	240mm	〃
18	130 30	1981. 10-16	LANDSAT	MSS	B, G, R; 4, 5, 7	中国東北	240mm	〃
19	131 30	1981. 9-29	LANDSAT	MSS	B, G, R; 4, 5, 7	中国東北	240mm	〃
20	113 37	1984. 12- 8	LANDSAT	MSS	4 ポジ	有明海	240mm	国土館大学・地理
21	113 37	1984. 12- 8	LANDSAT	MSS	5 ポジ	有明海	240mm	〃
22	113 37	1984. 12- 8	LANDSAT	MSS	7 ポジ	有明海	240mm	〃

4 地図 データ(FLOPPY DISK)

1 国土数値情報集約ファイルFD版(甲府)

5 GMS・NOAA 受信データ

気象衛星「ひまわり 4号」は一日に3~4回、またアメリカの海洋衛星「ノア 11, 12号」に関しては一日に6回程度のデータを受信しています。受信されたデータは、来年度から光磁気ディスクに保存されデータベース化出来る予定です。

6 GMS、NOAA直接受信システムの利用について

地理学教室ではGMSに続き、今年度はNOAAの直接受信システムを導入しました。これらの使用に関しては、研究室の他の機材と同様に原則として学生の使用を認めてきました。しかし、最近になって受信予約がキャンセルされたり、電源が切られたり、システムが止まったりという事故が頻発し、貴重なデータが失われたりデータの取得が出来なかったりという事態になりました。また、40MBの内蔵ハードディスクは原因不明の故障で交換を余儀なくされました。これ以上事故が続くと、教育・研究のためのデータが得られないばかりか学内への気象情報の提供にも影響を及ぼします。まことに遺憾ですが、今後学生が受信システムを操作する場合は、講義など教員が同席しているときに限ることになりました。

● 今回のニューズレターをもって、4年間発行に携わった長谷川は引退し、次号からは内田が担当します ●